



第6次八戸市
総合計画
将来都市像

ひと・産業・文化が輝く

北の創造都市

総合的な都市戦略のためのツーリズム行政 ～多様な主体の連携による観光政策～

八戸市における「ツーリズム行政」の実践と展望



八戸市商工労働観光部観光課 主査 加賀 允人



1. 八戸市の概要



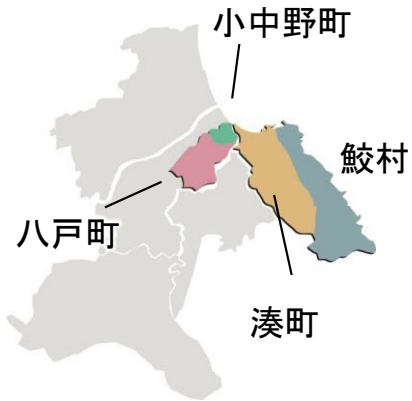
- 昭和 4年 市制施行 (八戸町、小中野町、湊町、鯨村合併)
5年 第1回全日本スピードスケート選手権大会開催
7年 市営バス創業
14年 貿易港として開港指定
15年 館村の一部を編入
17年 下長苗代村と合併
22年 第1回国民体育大会冬季スケート競技会開催
25年 上水道給水開始
26年 八戸港が重要港湾に指定
29年 是川村と合併
30年 市川村、館村、上長苗代村と合併
豊崎村と合併
31年 都市ガス供給
33年 大館村と合併
35年 特定第3種漁港に指定
39年 新産業都市に指定
44年 八戸港が穀物輸入特定港に指定
53年 下水道供用開始
61年 東北縦貫自動車道八戸線開通・
八戸圏域水道企業団発足
- 平成 3年 八戸ハイテクパーク完成
4年 インテリジェントプラザ・八戸地域地場
産業振興センター完成
5年 地方拠点都市地域に指定

- 6年 国際コンテナ航路 (東南アジア航路) 開設
三陸はるか沖地震の発生
8年 輸入促進地域 (FAZ) に指定
9年 ポートアイランド一部供用開始
10年 国際コンテナ航路 (中国・韓国、北米航路)
開設
11年 国際フィーダー航路 (横浜港ほか) 開設
13年 特例市に移行
14年 東北新幹線八戸駅開業
15年 環境・エネルギー産業創造特区認定
総合静脈物流拠点港に指定
17年 南郷村と合併
18年 国際フィーダー航路 (京浜港ほか) 開設
20年 国際フィーダー航路 (東京港ほか) 開設
21年 近隣7町村と八戸圏域定住自立圏を形成
22年 八戸港が重点港湾に指定
23年 東日本大震災の発生
25年 種差海岸が三陸復興国立公園に指定
27年 国際コンテナ航路 (韓国航路) 開設
29年 中核市へ移行
**近隣7町村と八戸圏域連携中枢都市圏を
形成**
令和元年 八戸市市制施行90周年



☆市制を施行

昭和4年5月



昭和15年1月



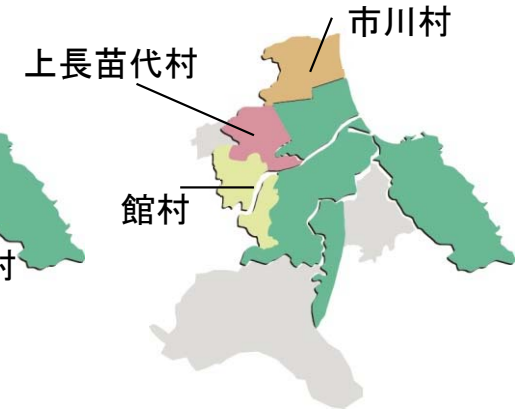
昭和17年4月



昭和29年12月



昭和30年4月



昭和30年10月



昭和33年9月



平成17年3月



現在





■ 沿革

- 昭和14年 開港
- 昭和26年 重要港湾に指定
- 昭和39年 **新産業都市に指定**
- 平成 6年 国際コンテナ定期航路（東南アジア航路）開設 ※平成24年廃止
- 平成 8年 輸入促進地域（FAZ）に指定
- 平成10年 国際コンテナ定期航路（中国・韓国、北米航路）開設
- 平成11年 国際フィーダー航路（寄港地：横浜港ほか）開設
- 平成15年 総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）に指定
- 平成18年 国際フィーダー航路（寄港地：京浜港ほか）開設
- 平成20年 国際フィーダー航路（寄港地：東京港ほか）開設
- 平成27年 国際コンテナ定期航路（韓国航路）開設

三菱製紙
八戸工場



蕪島

(写真提供：国土交通省 東北地方整備局 八戸港湾・空港整備事務所)



八戸市の人口・経済・交通ネットワーク



- 八戸市は、人口約22万人、青森県南東部に位置する県内第二の都市である。

【青森県第2位】○人口：22万3,529人（R2国勢調査速報値）

- 八戸市は、日本有数の水揚げを誇る水産都市であるとともに、北東北最大級の工業都市である。また、県内最多の商圏人口を擁し、岩手県北も含めた広域商業を担っている。

【全 国第10位】○水揚げ数量：6万1,170トン(R2)

【全 国第10位】○水揚げ金額：132億8,993万円(R2)

【北東北第2位】○製造品出荷額等：5,691億円(R1工業統計)

【青森県第2位】○年間商品販売額：7,510億円（H28経済センサス）

- 東北新幹線や東北縦貫自動車道八戸線・三陸沿岸道路等の高速道路網、八戸港（重要港湾）、三沢空港、本州と北海道を結ぶフェリー等、北東北における陸・海・空の交通結節点となっている。

- また、市内を通る高速道路網には、6つのインターチェンジが整備されている。

【北東北第2位】○八戸港コンテナ取扱量：52,232TEU（R2）

令和2年4月1日
八戸・室蘭フェリー航路開設



日本有数の水揚げを誇る水産都市



- これまで水揚げ数量日本一を6回記録するなど、日本有数の水産都市。
- 主力魚種はイカとサバ。イカの水揚げは長年日本一を記録。

【数量ベース（トン）】

【金額ベース（千円）】

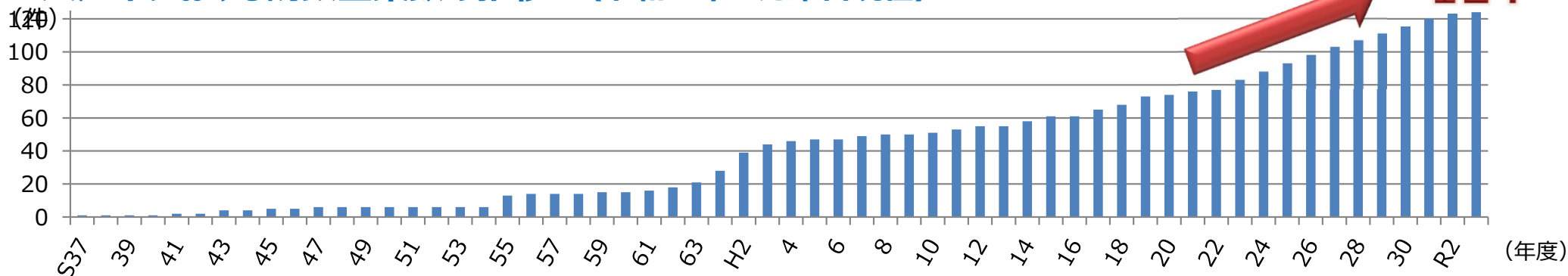


水揚げ数量日本一！

企業誘致の促進



■ 八戸市における誘致企業数の推移 (令和3年7月末日現在)



年度	誘致企業	(※社名は誘致当時)
H17	(株)インフォプラント	
H18	(株)ミナミ、中発テクノ(株)	
H19	桜総業(株)、つくばソフトウェアエンジニアリング(株)、テルウェル東日本(株)、(株)プライムビーピー、マネックス証券(株)、センサ工業(株)	
H20	(株)スズキ納整センター	
H21	(株)三和精機、新日本石油(株)	
H22	(株)クラフト	
H23	(株)ジェイロック・クリエイティブ、(株)アークパワー、(株)ウエノ、ヤフーカスタマーリレーションズ(株)、(株)宝幸、エプソンアトミックス(株)	
H24	(株)リゲイン、北日本造船(株)、高周波鋳造(株)、合同酒精(株)、マネックス証券(株)八戸事務センター	
H25	テルウェル東日本(株)八戸番号ポータビリティセンタ、ウォーターワン(株)、サラウンド(株)、(株)大泉製作所、(株)マーシュ	
H26	(株)Blazing、(株)抗菌研究所、(株)アパマンショップネットワーク、(株)Paltac、八戸バイオマス発電(株)	
H27	(株)フルタイムシステム、多摩川精機(株)・多摩川モバイル電装(株)、榎本ビーエー(株)、(株)ミックス、トゥルージオ(株)八戸チラシ情報センター	
H28	(株)上組、みちのくバイオエナジー(株)、エム・ピー・エム・王子エコエネルギー(株)、朝日インテック(株)	
H29	(有)酒井精密工業、エム・ピー・エム・王子ホームプロダクツ(株)、アダプティブ(株)、プライフーズ(株)	
H30	ShowTalk株式会社、(株)IGAメックス、(株)友伸エンジニアリング、Apanan Property(株)	
R01	(株)LEAP、(株)ライトカフェ、(株)ADKデジタルオペレーションズ、(株)北神エンジニア、旭光通信システム(株)	
R02	(株)オノフ、(株)トイ、(株)ネクストイースト	
R03	(株)サンダイヤ	



北東北の経済活動を支える物流拠点

八戸港韓国ポートセールスミッション2019

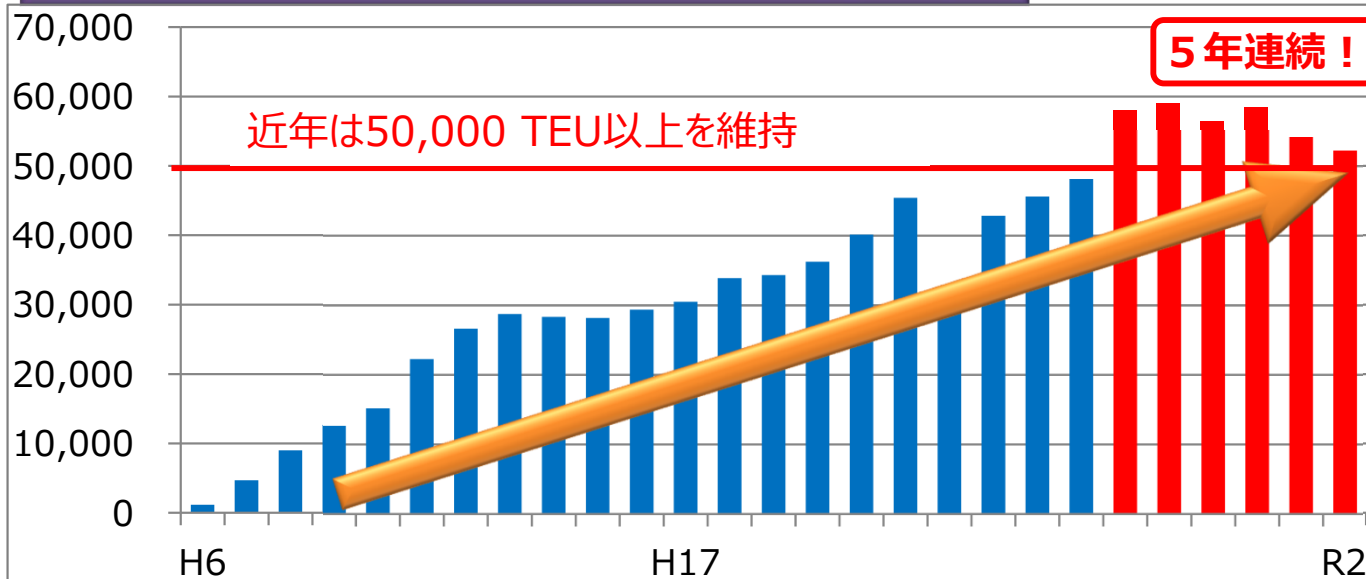


2019年11月13日

世界と繋がるコンテナ定期航路

- 中国・韓国航路 (南星海運(株)・高麗海運(株))
- 韓国航路 (長錦商船(株)、興亜LINE(株))
- 国際フィーダー航路
 - ・(株)横浜コンテナライン (八戸・横浜・仙台・宮古・苫小牧)
 - ・井本商運(株) (八戸・横浜・東京・苫小牧・仙台)
 - ・鈴与海運(株) (八戸・横浜・苫小牧)

八戸港コンテナ貨物取扱量 (TEU)



- H22年 : 45,430TEU (18,701)
 - H23年 : 30,846TEU (25,681)
 - ・震災の影響で前年比約3割減
 - ・H23年後半から持ち直す
 - H25年 : 45,636TEU (27,333)
 - H26年 : 48,136TEU (28,642)
 - H27年 : 58,065TEU (35,258)
 - H28年 : 58,972TEU (35,581)
 - H29年 : 56,429TEU (35,949)
 - H30年 : 58,463TEU (37,322)
 - R 1年 : 54,178TEU (36,526)
 - R 2年 : 52,232TEU (32,102)
- ※ () 内は実入の数値

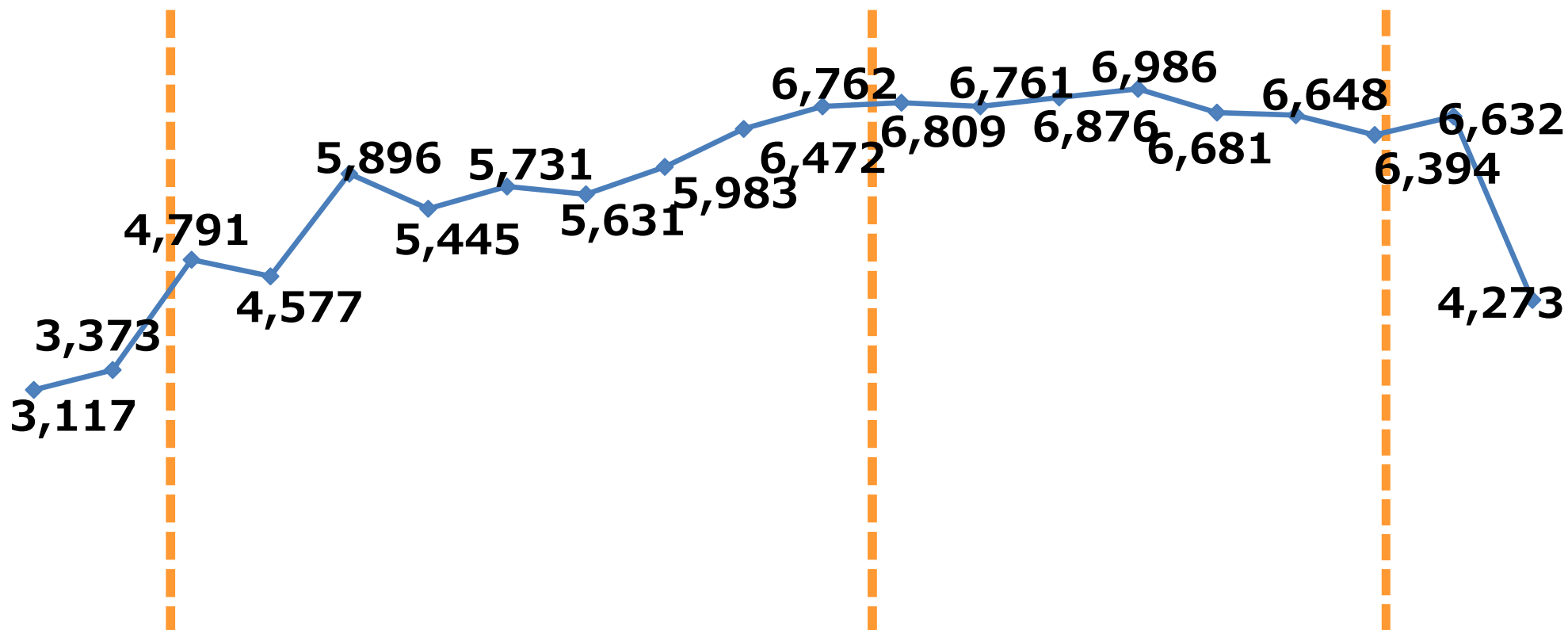


2. 八戸市の観光の概要

八戸市の観光客入込数



- 平成14年の東北新幹線八戸開業以降増加、近年は660万人～690万人程度で推移。
- 令和2年は新型コロナウイルスの影響により大幅に減少。



H13 H14 H15 H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30 R1 R2

平成14年12月
東北新幹線八戸開業

平成22年12月
東北新幹線新青森開業

平成28年3月
北海道新幹線
新函館北斗開業



二大祭り

夏

八戸三社大祭

冬

八戸えんぶり

通年観光

種差海岸

国宝・歴史

朝市

横丁

二大祭り～八戸三社大祭～



全国33件の祭礼行事が、「山・鉦・屋台行事」として、ユネスコ無形文化遺産に登録

【開催期間】 毎年7月31日～8月4日

300年の歴史と伝統を誇る、豊作祈願、報恩の祭り。最大で高さ10mの山車が27台練り歩く。



八戸地方に春を呼ぶ豊年祈願の郷土芸能 昭和54年国指定重要無形民俗文化財

【開催期間】 毎年2月17日～2月20日

八戸地方を代表する民俗芸能。その年の豊作を祈願するための舞で、太夫と呼ばれる舞手が馬の頭を象った華やかな烏帽子を被り、頭を大きく振る独特の舞が大きな特徴。雪の中、街を練り歩き、お屋敷の庭でもその舞は行われる。





三陸復興国立公園の北の玄関口として、変化に富んだ地形と多彩な植生を誇る種差海岸から、震災で被害を受けた三陸地域の元気を発信していきます！

平成25年5月24日
三陸復興国立公園指定



東北太平洋岸自然歩道 「みちのく潮風トレイル」

- 八戸市蕪島から福島県相馬市松川浦までの1,000kmを超える長距離自然歩道。
- 令和元年6月9日に全線が開通。宮城県の名取トレイルセンターが全線を統括し、種差海岸インフォメーションセンターは八戸市、階上町、岩手県洋野町の区間の拠点施設（サテライト）として情報管理や利用促進等の活動を行っている。



みちのく潮風トレイル全線開通記念式典

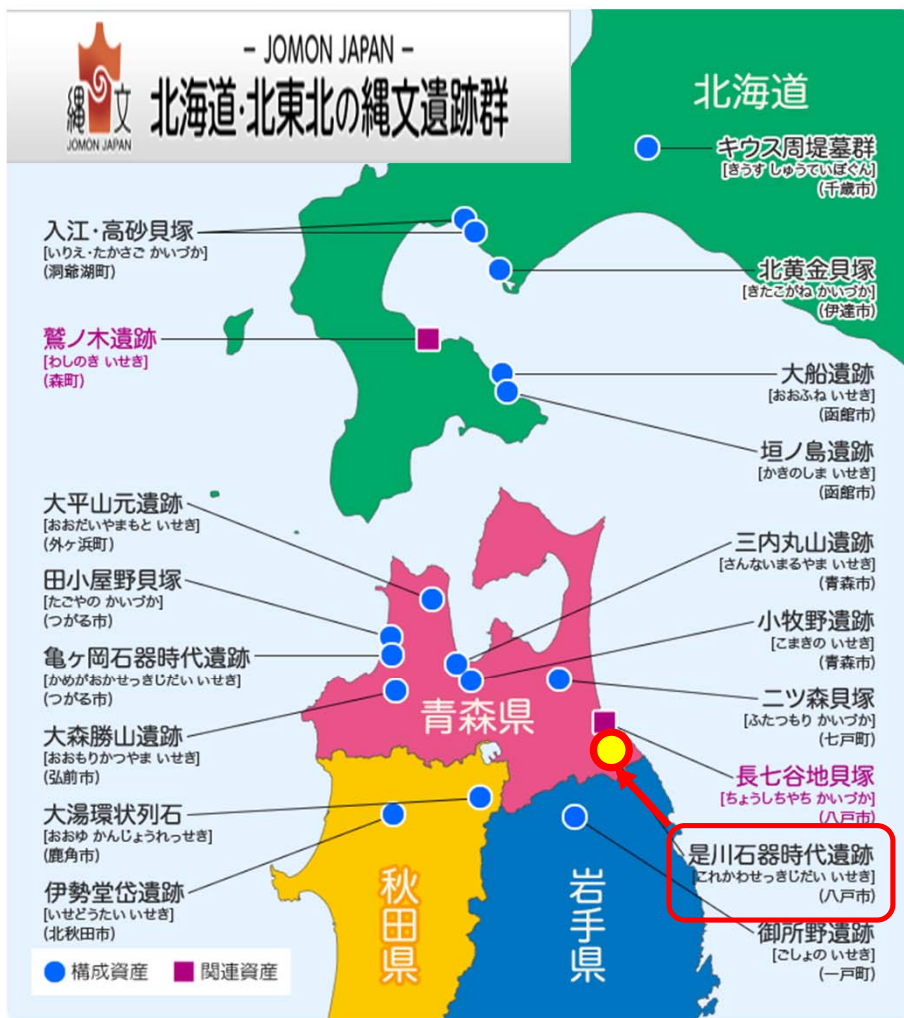
八戸市区間は、変化に富んだ絶景や様々な動植物と出会えるコースとして人気



『史跡 是川石器時代遺跡』令和3年7月 世界遺産登録！

【北海道・北東北の縄文遺跡群】

北海道・青森県・岩手県・秋田県に所在する17の遺跡で構成される、1万年以上にわたり継続した採集・漁労・狩猟により定住した人々の生活と精神文化を伝える文化遺産。



【史跡是川石器時代遺跡】

中居、一王寺、堀田の3つの遺跡からなる。特に晩期の中居遺跡は、土器・土偶、弓やヤスなどの木製品、漆塗りの櫛などの漆製品が出土し、河川流域における生業や高度な精神性を伝える遺跡。



木胎漆器出土状況
低湿地の捨て場から見つかった赤色漆の木製容器



是川石器時代遺跡土器
鉢や壺、注口土器など、様々な土器が作られ、整った形や美しいデザインが特徴



3. 生活文化を観光に活かす

日本最大級の朝市 館鼻岸壁朝市



館鼻岸壁朝市は、約800mにわたって300以上の店が立ち並び、毎週数万人が足を運ぶ日本最大級の朝市



【開催期間】 3月中旬～12月の毎週日曜日
【時間】 夜明けから朝9時頃まで
【出店数】 約300店
【集客数】 平均2～3万人



八戸市営魚菜小売市場

昭和28年開設。八戸市や周辺町村の台所として発展。(現在は改修工事のため移転営業中)



近年は昔ながらの味わいのある雰囲気の人気となり、観光客も多く訪れる。

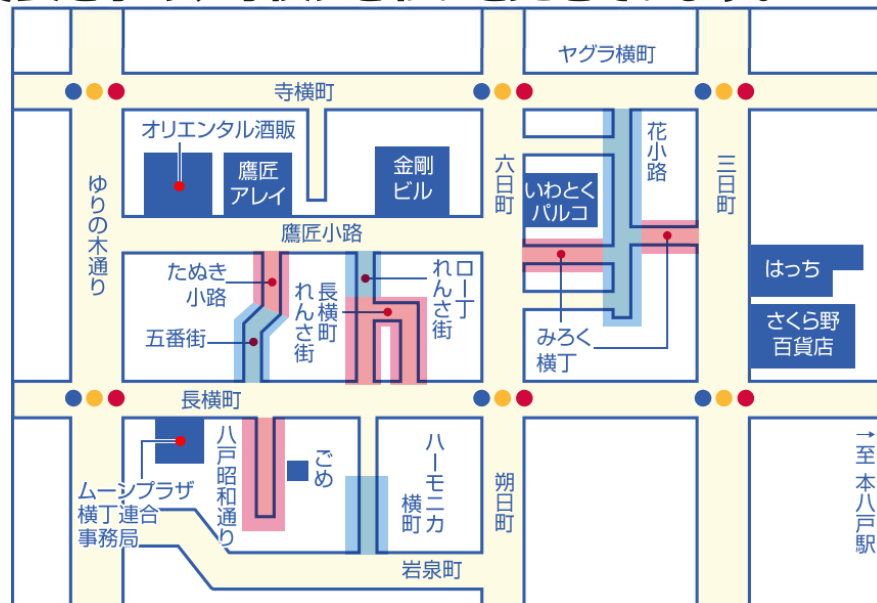


ウニや筋子、マグロなど、店内で好きなものを買って、カウンターでご飯とみそ汁を購入して自分だけのオリジナル定食に。





中心街に張り巡らされた8つの横丁。古くから港町として栄えた八戸では、漁から戻った海の男たちをもてなす飲食店が発達。昭和の風情と美酒・美食を求め、毎夜にぎわいを見せています。



八戸横丁月間 酔っ払いに愛を



2020年 10/1[木] - 31[土] **やっぱり来ちゃう横丁!**

10/1～10/31までを「八戸横丁月間」とし、1か月間、横丁を楽しむための様々なイベントを開催。



日本全国地酒で乾杯

10/1の日本酒の日に合わせて開催。日本各地の日本酒を一杯100円で飲むことができる夢のイベント。19時には全国各地と中継を繋ぎ日本全国で一斉に乾杯。



横丁オンリーユースター

横丁のあちこちで繰り広げられるダンスや芝居などのパフォーマンスをハシゴして楽しむイベント。



4. 市民生活の質の向上と観光振興

中心市街地における各種事業



更上閣にぎわい広場 (H30年2月供用開始)

商業集積地と公園を繋ぐ空間として、更上閣の歴史と見晴らしの良い敷地特性を活かした市民が寛げる広場を整備。



八戸市長根屋内スケート場 (R元年9月供用開始)

国際大会が開催可能な屋内スピードスケート場を整備。



花小路整備支援事業 (R2年3月供用開始)

花小路の路面の美装化のほか、スロープの設置などによる段差解消や、植栽、照明、ベンチ等の工夫により、明るい雰囲気を出し、誰もが訪れやすい空間整備を行うことで、中心市街地において新たな人の流れを生み、賑わい創出を図る。



六日町地区優良建築物等整備事業 (ガーデンテラス H28年7月供用開始)

老朽化した空ビルを解体し、優良な再開発により歩行者等の円滑な通行のため日常的に開放された通路を整備し、回遊性の高い市街地の形成を図る。



八戸まちなか広場整備事業 (八戸まちなか広場「マチニワ」 H30年7月供用開始)

老朽化した空ビルを解体した跡地の一部を市が取得し、中心市街地のメインストリートに歩行者の滞留や回遊の拠点として、全天候型の多目的広場を整備。



本八戸駅通り地区整備事業

■都市計画道路 沼館三日町線
【県事業】

L=700m、W=15.0m (H22~)
中心市街地の玄関口である本八戸駅と三日町をつなぐ道路として、公会堂、市庁前の広場と一体となった整備を行う。

■内丸地区街なみ環境整備事業
【市事業】

内丸地区A=26.5ha
(H24~R7)
八戸市中心市街地の玄関口に相応しい街なみの整備を行い、歩いて楽しい通りと都心地区に隣接する良好な住宅地を形成する。

番町・堀端町地区整備事業 (令和2年9月 供用開始)

※青森銀行八戸支店移転オープン

隣接する八戸市美術館との協調開発により、土地の等価交換による敷地の整形化等を図りながら、コンパクト&ネットワークの都市構造の形成を図る。



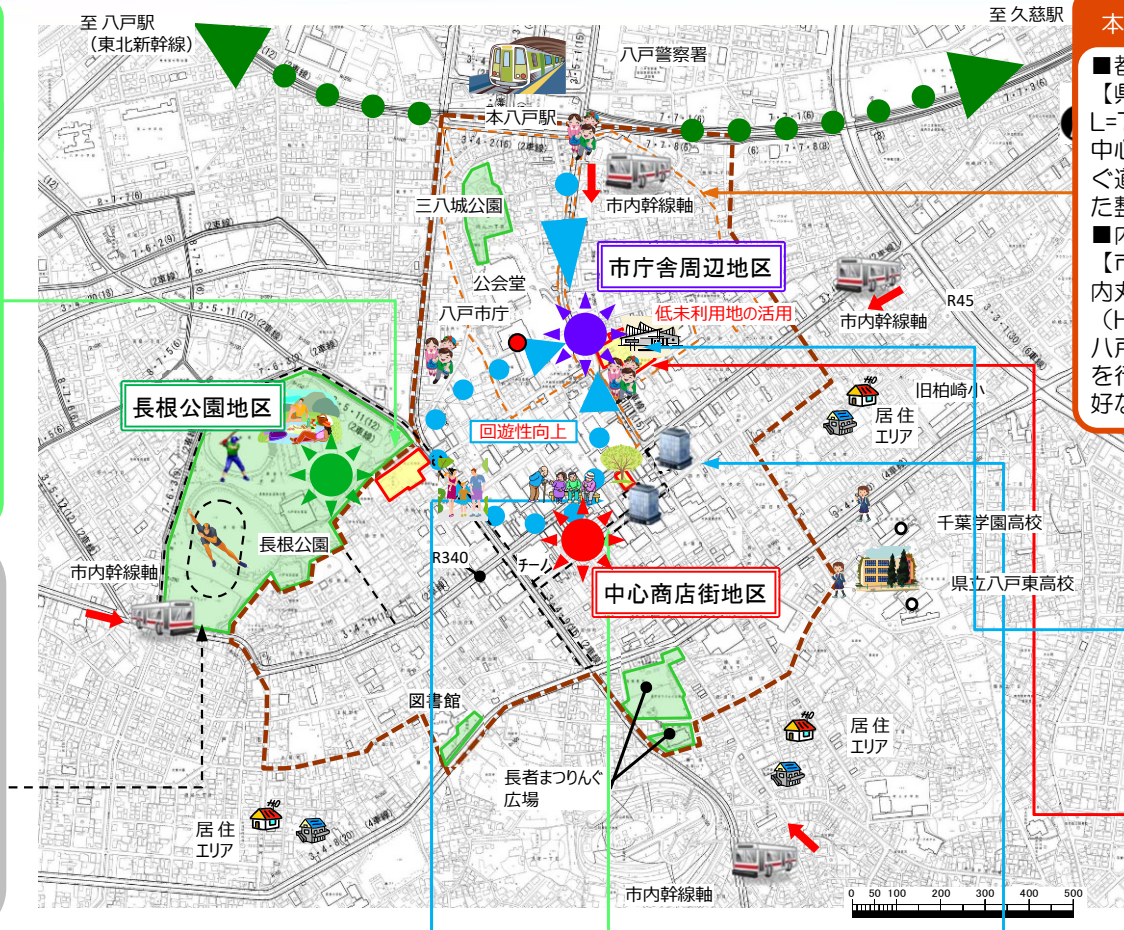
新美術館整備事業 (令和3年11月3日開館)

美術館を市民が交流場所としてまちづくりに活かすため、機能を拡充し芸術文化に身近に親しむ環境を整え、地区の再生・活性化に寄与する。



八日町地区複合ビル整備事業 (令和2年7月 供用開始)

老朽化した空ビルを解体し、優良な再開発によって歩行者等の円滑な通行のため日常的に開放された空を整備し、市街地の環境改善を図る。





八戸ポータルミュージアム『はっち』は
このまちがもっと、このまちらしく輝くために、地域の資源を
大事に想いながら、まちの新しい魅力を創り出すところ。



延べ来館者数
約910万人!

(H23年2月~R3年7月)



はっちひろば (1F)



こどもはっち (4F)



まちぐみ「高校生とつくる 南部せんべいカフェ」

コンセプト

平成30年7月21日オープン

街なかの「庭」のような役割を担う「マチニワ」を基本コンセプトとし、中心市街地の中枢となる場所に、**地区全体の魅力向上、にぎわいの創出、回遊性の向上、周囲への効果の波及等を促す新たな拠点**を目指します。



■ 開館情報

【オープン時間】 6 : 0 0 ~ 2 3 : 0 0
※オープン時間以外は通行不可
【休館日】なし
【貸出時間】9 : 0 0 ~ 2 1 : 0 0

■ 施設概要

【階数】地上2階（2階はデッキ）地下1階（倉庫、機械室等）
【隣接施設】ガーデンテラス、はっち、花小路
【主な設備】シンボルツリー兼水飲み場、大型ビジョン、エレベーター、公衆無線LAN（wi-fi）

利用実績

日常：ショッピング中の休憩、待ち合わせ、飲食スペースとして
ハレ：バルフェス、マルシェ、音楽などのイベント会場として
※広場内に給排水設備を設けているため、消防・保健所の許可の範囲内で火気を使用したイベント、食の催事にも対応





八戸ブックセンター

3つの 方針

- 本を「読む人」を増やす
- 本を「書く人」を増やす
- 本で「まち」を盛り上げる

「本のまち八戸」の拠点施設として平成28年12月に開設。令和3年7月末現在で**527,713人の来館者**



主な 施設機能

セレクト・ブックストア	海外文学や人文・社会科学、自然科学、芸術などの分野を中心に、専門家ではなくても手に取りやすい内容の本を主として、幅広くセレクト。興味を引く工夫をした本の陳列をし、気に入った本は購入することができる。
読書会ルーム	本から得た知識や感情などを共有できる場である読書会用の部屋。
カンヅメブース	本を執筆したい人向けに、集中できるブースを設置。
ギャラリー	特定の作家や作品に関する展示、本の印刷・造本・装丁などに関する展示を行う。

主な 企画事業

本のまち読書会	本を読み始めるきっかけや、本を深く楽しむきっかけとなるような読書会を主催。
執筆出版ワークショップ	小説の書き方や電子書籍の作り方など、執筆や出版に関するワークショップ。
ブックサテライト増殖プロジェクト	市内の飲食店や公共施設などに小さな本棚を設置し、本棚スポットをめぐる楽しさを創出。
関係機関との連携	市内書店や読書団体、図書館、マイブック推進事業などとの連携、「八戸ブックフェス」の開催など。

新美術館建設の背景

- 新しい美術館整備を求める市民の声の高まり
- 「アートのみちづくり」中核施設としての美術館機能拡充
- 現在の美術館の施設面での課題解決

▼整備スケジュール

- 平成28年度 基本構想策定、基本設計業者選定
- 平成29年度 基本設計完了、実施設計着手、旧美術館解体
- 平成30年度 実施設計完了、管理運営基本計画策定
- 令和 1年度 本棟建築工事着工、中期運営計画策定
- 令和 2年度 竣工、美術館前広場整備着手、開館準備
- 令和 3年度 美術館前広場完成、オープン（R 3.11.3）

整備概要

- 構造及び階数：鉄骨造／地上3階
- 延床面積：4,881㎡
- 建物本棟概算工事費：約32億円
- 設計者：西澤徹夫建築事務所・タカバンスタジオ設計共同体
- 本棟建築工事：鴻池組・田名部組・東復建設JV

▼新しい美術館のビジョン

種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館
～出会いと学びのアートファーム～

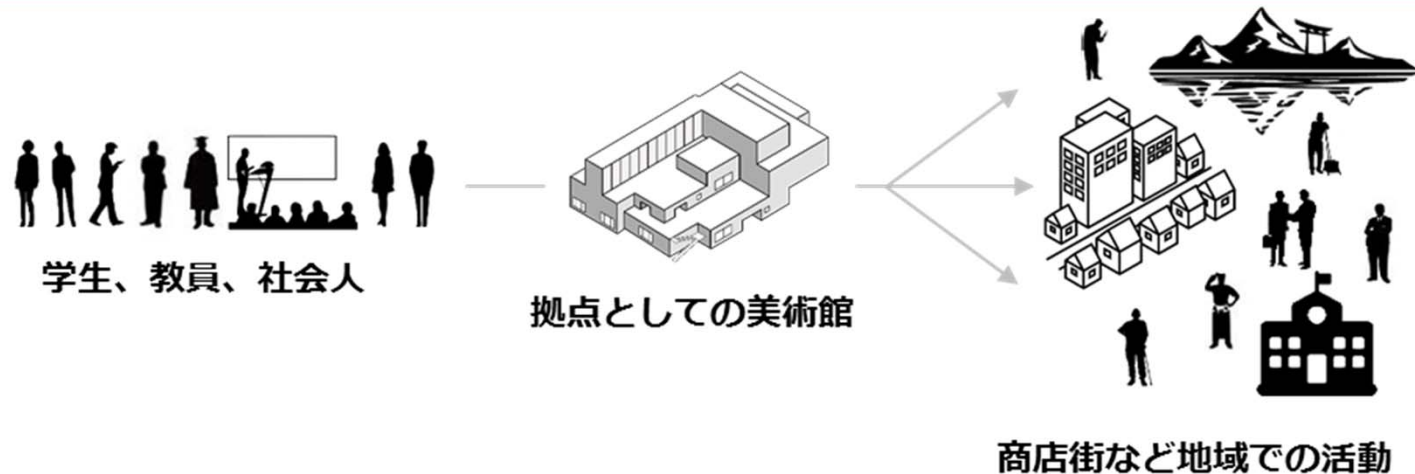
「美術館」の基本的な役割に、人々が互いに刺激し合いながら感性を高め育まれていく「アートの学び」と、観光や福祉、地域コミュニティなど様々な分野を横断した総合的な文化政策を担う「アートのまちづくり」の3つの役割を融合した新しい美術館とする。

令和3年11月3日オープン



大学・高専との連携プロジェクト

- ◆特徴的な活動を展開している市内の大学・高専と連携し、経済や福祉、まちづくりなど、文化芸術以外の様々な分野にアート之力を波及させる取組を展開する
- ◆美術館内に学生や、大学の先生などの活動場所を設け、中心街に学生を呼び込み、様々な形でまちの活性化に結びつけていく





氷都八戸

屋内スケート場完成

氷都八戸パワーアッププロジェクト 実施中！

・スケート競技人口拡大・競技力向上へ
岡崎朋美さん



令和元年11月24日

岡崎朋美さんを招いてのスケート教室の様子

レスリング

当市のレスリング文化を全国へ...

レスリングのまち推進事業を展開！

・出身メダリストの功績をたたえる
・子ども達の全国大会を実施



平成31年3月17日

伊調馨さんを招いてのレスリング教室大会の様子

トップレベルのチーム

地域振興のため、チームを支援

地域スポーツチーム応援事業で4チームを応援！



・東北フリーブレイズ
(アジアリーグアイスホッケー)



・ヴァンラーレ八戸FC
(J3リーグ)



・青森ワッツ
(バスケットボールB2リーグ)



・八戸ダイム
(3人制プロバスケットチーム)

■ 概要

市民の郷土への愛着と誇りを醸成するために、当市にゆかりのトップアスリート及び当市を拠点とするスポーツチームを**八戸市スポーツ大使**として委嘱し、当市の魅力をPRしていただくもの。



八戸市  スポーツ大使
Sports Ambassadors, Hachinohe City

■ チーム

ヴァンラーレ八戸
東北フリーブレイズ
青森ワッツ

■ 個人

伊調 馨 (レスリング)
小原 日登美 (レスリング)
中村 亜実 (アイスホッケー)
小笠原 祐子 (バトントワリング)
小清水 倫子 (バトントワリング)
天摩 由貴 (ゴールボール)
上野 みなみ (自転車)
岡崎 朋美 (スピードスケート)

(R2.10月現在)
※敬称略

八戸市長根屋内スケート場整備事業



1. 国際大会が開催可能な屋内スピードスケート場
2. スピードスケート競技・スケート文化の拠点的作用
3. 防災拠点・多目的な利用が可能



令和元年9月29日供用開始



主な開催大会(実施済を含む)

2020年：第75回国民体育大会冬季大会スケート競技会
(令和2年)・アイスホッケー競技会(1/29-2/2)

2020年：全日本選抜スピードスケート競技会
(令和2年) (11/20-11/22)

2021年：JOCジュニアオリンピック大会
(令和3年)第44回全日本ジュニアスピードスケート選手権大会
(1/9-11)

2021年：ISUジュニアワールドカップスピードスケート競技会
(令和3年) (2/13-14) →開催中止

2021年：ISU世界ジュニアスピードスケート選手権大会
(令和3年) (2/19-21)→開催中止



アリーナ



ロビー(1階)



ホワイエ(2階)



観戦ロビー(3階)

「プライフーズスタジアム」(天然芝球技場)

平成28年10月1日供用開始

【ネーミングライツスポンサー企業】プライフーズ株式会社(令和2年1月1日～令和6年12月31日)

施設概要

- ①建築物：管理棟兼津波避難施設(メインスタンドなど)
 - ②屋外施設：球技場(天然芝)、駐車場、多目的グラウンド(人工芝)など
 - ③工作物：芝生スタンド、電光掲示板など
- ※照明設備整備(令和3年4月1日 供用開始)



●多賀多目的運動場の利用実績

	利用者数(人)	備考
平成28年度	54,087	10月供用開始
平成29年度	130,393	
平成30年度	124,044	
令和元年度	116,886	
令和2年度	67,083	4/10～5/31の間一部又は全部の利用を休止



令和2年4月1日供用開始

■ 整備の枠組み

【施設の概要】

- ・アイスホッケー利用時は約3,500人、バスケットボール利用時約5,000人を収容
- ・映像・音響・照明設備も最新技術を活用したものを設置
- ・平成30年12月着工 / 令和2年4月1日 開業



▼内観



画像提供：FLAT HACHINOHE

施設の目指す姿

- ✓ 交通利便性を活かすことで、広域から集客でき、様々なアリーナスポーツやイベントを「観て楽しむ」ことができるエンターテインメント型の多目的アリーナ
- ✓ プロスポーツの試合開催以外に、学校教育や地域スポーツで利用するなど、官民連携の新たなスポーツ施設運営モデルとなる施設
- ✓ 国内外へ「氷都 八戸」をアピールできる場としての施設



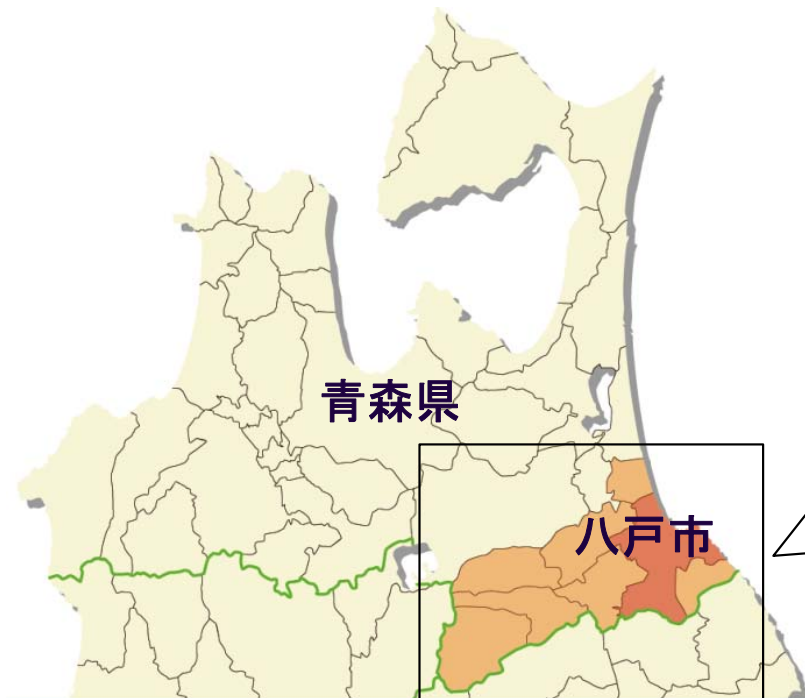
3x3.EXE PREMIER
八戸DIME ホーム戦 (R 3.6.26)



5. 観光の広域連携について

八戸圏域連携中枢都市圏

- ① 構成：八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町（8市町村）
- ② 圏域人口：323,447人（H27国勢調査）
- ③ 総面積：約1,346km²



これまでの動き

【平成26年度】

- 八戸圏域で**連携中枢都市圏の形成可能性を検討**することを**8市町村長が合意**

【平成27年度】

- 「新たな広域連携促進事業（総務省）」を活用し、連携の可能性を検討
- 八戸圏域で**連携中枢都市圏形成に向けた手続きを進める**ことを8市町村長が合意

【平成28年度】

- 有識者等で構成する「八戸圏域連携中枢都市圏ビジョン懇談会」や、8市町村の担当者と構成する「ワーキング・グループ会議」等を開催し、**連携中枢都市圏形成に向けて協議**
- H29年1月1日 **中核市へ移行**
- H29年1月4日 **「連携中枢都市宣言」を実施**
- H29年3月22日 **「連携協約」を締結、「八戸圏域連携中枢都市圏ビジョン」を策定・公表**



連携協約調印式にて(H29.3.22)

目指す将来像 「地域の個性が輝き 自立した 八戸圏域」

【平成29年度～令和3年度】

- 「**八戸圏域連携中枢都市圏ビジョン**」に基づく事業を実施

23施策80事業（R3年度）

関係市町村長会議

各市町村の長で構成
企画案が政策の方向性に合致しているか確認

関係市町村企画担当課長会議

各市町村の企画部門の担当課長で構成
WG会議で検討された企画案を調整

分野別WG会議

23施策80事業（R3年度）に関して、31のWG会議を設置。各WG会議には、事業に関係する市町村の担当者が所属し、連携市町村職員同士の実務レベルで企画立案を実施。

ビジョン懇談会

八戸圏域連携中枢都市圏のビジョン策定・変更や連携事業の進捗管理にあたり、産業界、教育機関、金融機関、医療、福祉、労働団体等の代表者や関係者から意見を聴取

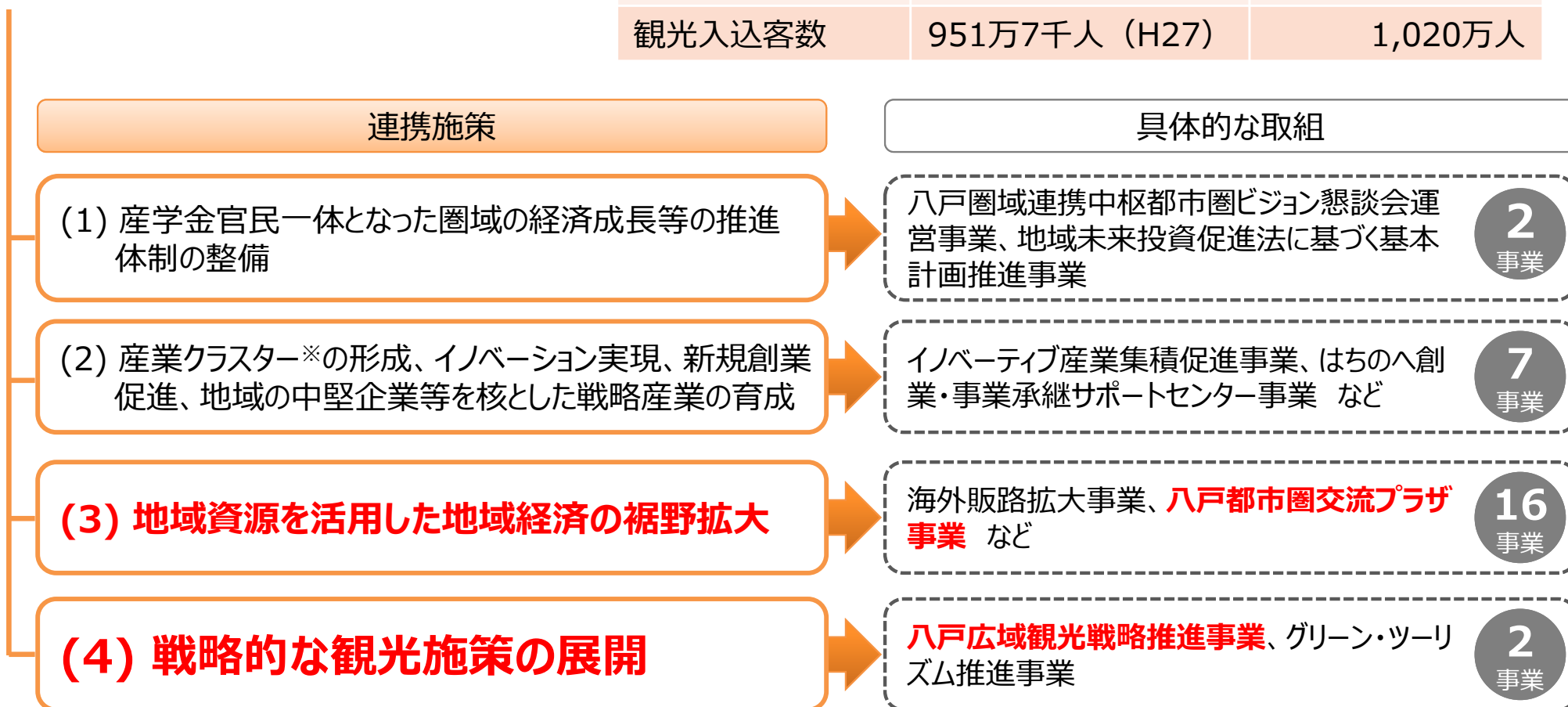
全20名

- ・産業 3名
- ・大学・研究機関 3名
- ・金融機関 1名
- ・医療 1名
- ・福祉 1名
- ・教育 1名
- ・地域公共交通 1名
- ・雇用 1名
- ・男女共同参画 1名
- ・構成町村 7名

役割 1 圏域全体の経済成長のけん引

役割 1 の基本目標を右のとおり定め、その実現のために **4 施策** **27 事業** に取り組んでいます。

名称	現状	目標 (R3)
製造品出荷額等	6,080億円 (H26)	6,150億円
従業者数	14万1千人 (H26)	14万1千人
観光入込客数	951万7千人 (H27)	1,020万人



※産業クラスターとは、新事業が次々と生み出されるような事業環境を整備することにより、競争優位を持つ産業が核となって広域的な産業集積が進む状態

八戸都市圏交流プラザ「8base」の設置



地場産品の認知度向上と関係人口の形成・増加を目指すとともに、UIターンによる移住・定住等を促進するための首都圏交流拠点として、**八戸都市圏交流プラザ「8base」** (エイトベース)を設置し、総合的なプロモーションを実施。

8base 概要

住所 東京都千代田区内幸町一丁目7-1
「日比谷OKUROJI」内
※新橋駅～有楽町駅 高架下

アクセス JR新橋駅から徒歩6分
JR有楽町駅から徒歩6分

面積 約137㎡ (約42坪)

営業時間 11:00～22:00
定休日:年末年始

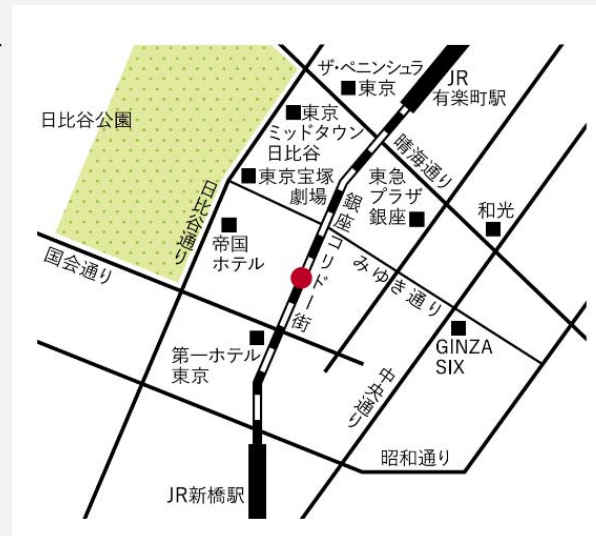
機能

【飲食・物販】

- ・八戸圏域の海の幸と山の幸をふんだんに使った創作郷土料理と地酒を堪能
- ・定番のものから「地元ならではの」個性的なものまで、各種おみやげをラインナップ

【交流拠点】

- ・八戸圏域の魅力に触れられるファンミーティングや交流会、PRイベントを開催



延べ来店者数
27万人突破!

R3年10月末時点

令和2年9月10日オープン



八戸都市圏交流プラザ「8base」の設置



八戸圏域のファンづくりのため、八戸圏域にゆかりのある方をゲストに招聘し、八戸圏域の魅力を語っていただく「**八戸圏域ファンミーティング ふるさと気分**」を開催。

第8回 八戸圏域ファンミーティング
ふるさと気分
Furusato Kibun

参加者
募集中

古屋敷裕大

トークテーマ
ふるさとで歌う
シンガーソングライター

2021年10月30日(土)

ゲスト 古屋敷 裕大さん

ふるさと 古屋敷 裕大さん
詳細は、公式webサイトをご覧ください。

エイトベース 検索

こころ帰る、ふるさと旅。

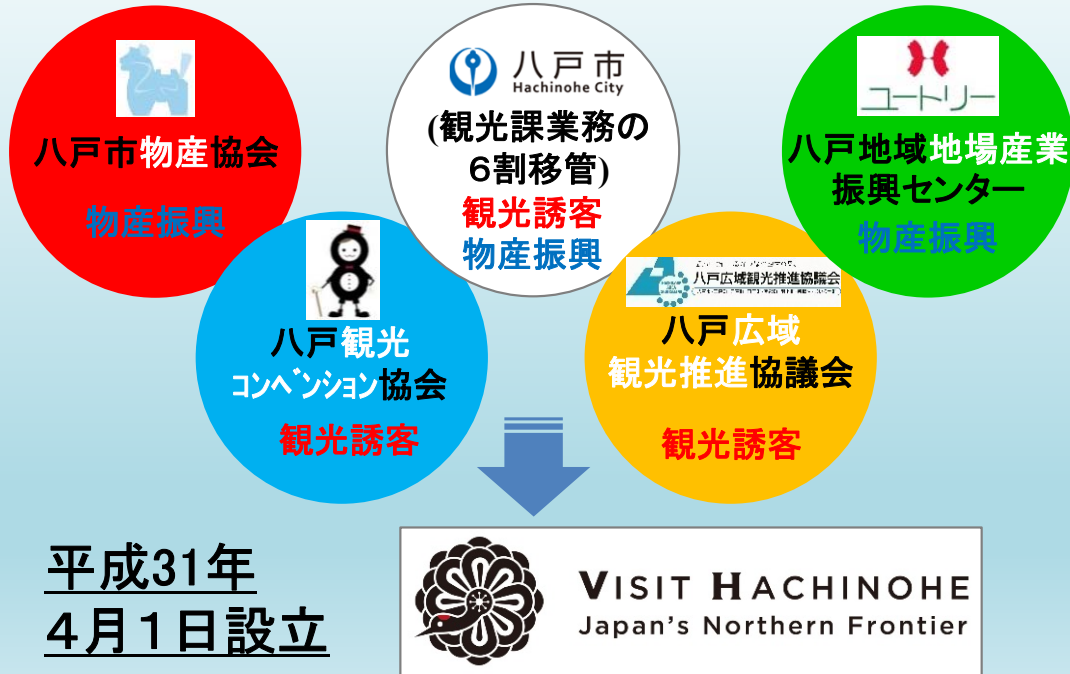
EIGHT BASE



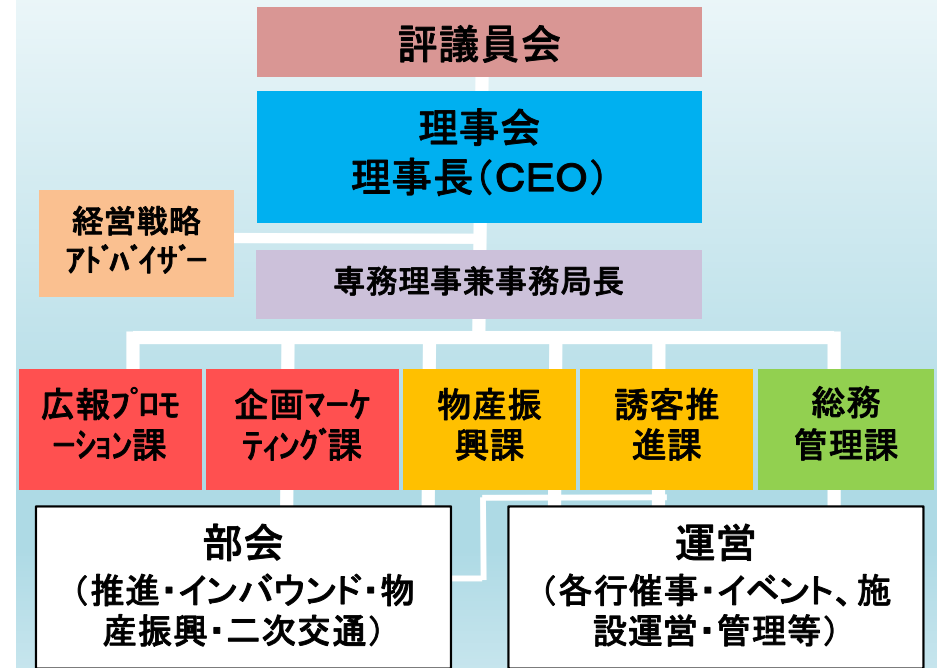
八戸圏域版DMO「VISITはちのへ」の設立



団体概要



組織体制



主な事業

インバウンド事業

- ① エージェントプロモーション事業
英・仏・台をターゲットに、現地エージェントを配置し、効果的な情報発信等による誘客促進
- ② インバウンド推進事業
外国人スタッフが八戸圏域の魅力的なコンテンツをSNSで情報発信

国内誘客推進事業

- ① デジタルマーケティング事業
GoogleやYahoo!でデジタル広告を配信
- ② 八戸三社大祭・八戸えんぶり事業
ユネスコ無形文化遺産である八戸三社大祭及び国重要無形民俗文化財である八戸えんぶりの企画運営。

物産振興事業

- ① 圏域商流づくり事業
八戸圏域の地場産品をパッケージ化し、首都圏配送の商流を構築
- ② 展示即売事業
ユートリーに特設ブースを設置し、新商品PRなど、圏域事業者支援のプラットフォームづくり



世界の権威コンデナスト・トラベラー誌英国版にて、「2022年ベストホリデー・デスティネーション」として、日本で唯一、八戸が紹介されました！



Only images

Hachinohe, Japan

With villages drenched in history and pounding Pacific coastlines, Hachinohe in the Aomori Prefecture of Honshu island is a woefully overlooked slice of lowliness (fewer than 2 per cent of foreign travellers to Japan make their way here). The 2011 earthquake and tsunami decimated much of the northern region, and ever since, tourism has been crucial to the recovery of the area. The local community has worked tirelessly to soothe the scars, generating vital income and lifting the region towards its former glory.

The recently rebuilt Michinohe Coastal Trail - which connects the city of Hachinohe with Seno in Fukushima - is a splendid way to explore. Wriggling along the coast of Tohoku, the trail takes in hidden Shinto shrines, bear-filled forest and fragrant wildflower meadows along 1000 picturesque kilometres. Shack up in one of the many welcoming guest houses along the way, and you'll snatch a glimpse of authentic Tohoku life while directly supporting local families.

Hachinohe historical and cultural significance is hefty. Archaeological artefacts suggest that humans have inhabited the area since the Jomon Era, some 20000 years ago. The influence of samurai can the Nanbu can certainly be felt across every inch of the region, from the faithfully restored Nejo Castle, built by a military leader in 1584, to the prevalence of Nanbu folk arts developed generations ago but still practised with love and exquisite skill today.

旅行業界での高い信頼を得ており、月間190万人ものユニークユーザー数を誇る旅行誌の権威、コンデナスト・トラベラー英国版の「2022年のベストホリデー・デスティネーション（最高な休暇を過ごせる旅先）」特集で、エジプトや中国北京などと並び、青森県八戸圏域にある「みちのく潮風トレイル」などが取り上げられました。

【掲載内容】

「混雑を避け、地元の人々の生活や文化、自然を体験する旅行」というこれからの旅行トレンドに合った旅先として八戸圏域の魅力を紹介。

みちのく潮風トレイル



世界遺産 是川石器時代遺跡



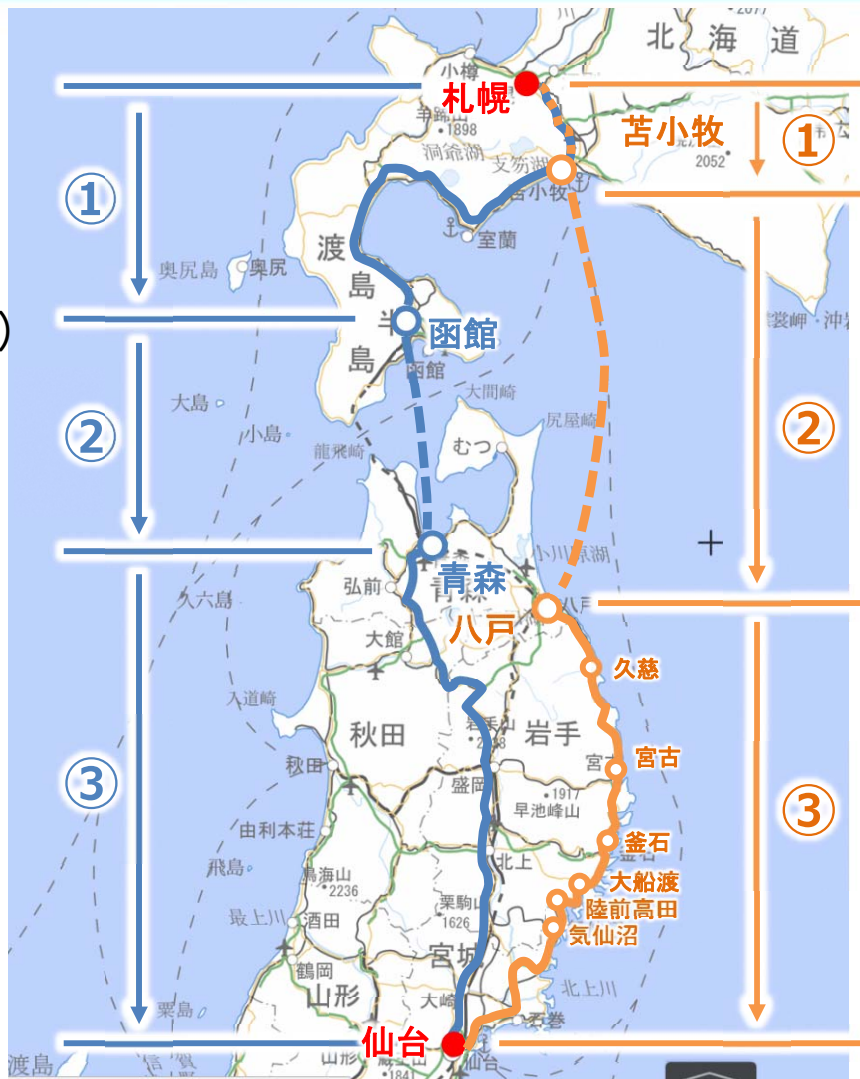
八苦連携 札幌-仙台間のトラック輸送



青函航路

- ①札幌～函館港フェリーターミナル
(北郷IC～大沼IC経由)
距離：304km (平均速度80km)
時間：20:10→0:00(3h50m)
料金：10,380円
- ②津軽海峡フェリー
時間：0:30→4:10(3h40m)
料金：60,480円
- ③青森～仙台
(青森IC～仙台宮城IC経由)
距離：353km (平均速度80km)
時間：4:25→9:20(4h55m)
料金：12,300円

総 時間：13時間10分
運転時間：8時間15分
料 金：83,160円
燃 料 費：20,810円



※料金等は大型トラック(車長12m未満、総重量25トン未満)で試算
 ※燃料費は燃費4km/ℓ、軽油単価126.7円(R1.7.1全国平均)で試算

八苦航路

- ①札幌～苫小牧フェリーターミナル
(北郷IC～苫小牧東IC経由)
距離：67km
時間：19:55→20:45(0h50m)
料金：2,450円
- ②シルバーフェリー
時間：21:15→4:45 (7h30m)
料金：69,700円
- ③八戸～仙台
(八戸南IC～仙台港北IC経由)
距離：373km (平均速度70km)
時間：5:00→10:50(5h50m)
料金：1,400円
(鳴瀬奥松島IC-仙台港北IC)

総 時間：14時間55分
運転時間：6時間10分
料 金：73,550円
燃 料 費：13,937円

- 青森ルートの方が移動の総時間は短いですが、八戸ルートの方が実質的な運転時間や経費面では優位
- トラックドライバーは、勤務と勤務の間に休息時間を8時間以上設ける必要がある。八戸ルートの場合、早めに乗船することによって、フェリーの乗船中に休息時間を取得でき、効率的な輸送体制が実現できる



平成30年7月31日に北海道苫小牧市と交流連携協定を締結

両市の密接な連携と協力により、フェリー航路を活用した交流人口の拡大や、新たな海外コンテナ航路の開設等による物流機能の強化等の面において、都市間連携による相乗効果を得ることを目的に、観光、スポーツ、物流・貿易、その他の分野において、相互に連携し、協力します。

愛称とロゴマーク

はちとまネットワーク

両市の市民に親しまれ愛されていけるよう、親しみやすさ、呼びやすさ等を考慮し、愛称とロゴマークを定めました！



「はちとま」とは、八戸市・苫小牧市の略称であり、また、「ネットワーク」とは、フェリー航路やコンテナ航路での繋がりや、両地域と人と人の繋がりをイメージ



▲苫小牧市・八戸市交流連携協定 調印式の様子
(於：八戸市)

締結後の動き

● 連携締結後、以下の3事業を開始。

- **観光情報相互発信事業**…パンフレット配布や、観光ウェブサイトへの掲載等により相互の観光情報を発信する。
- 東南アジアコンテナ定期航路誘致事業…船会社訪問、宮城県庁訪問を両市が連携して行う。
- 広報誌への情報掲載…両市の広報誌に、観光・スポーツ等のイベント情報等を掲載する。

● 観光、スポーツ、貿易・物流、その他の分野で連携事業を実施するとともに、両市の絆をさらに深めるため、民間団体を巻き込んだ交流連携の可能性を研究

● 北海道胆振東部地震の際に「苫小牧青年会議所」と「八戸青年会議所」が北海道むかわ町で炊き出しを実施（平成30年9月14日）

● 「青い森信金」と「苫小牧信金」が交流連携協定を締結（平成30年12月14日）



『北緯40°ナニャトヤラ連邦会議』

八戸圏域、久慈圏域、二戸圏域が県境を越えた相互の連携・協力を推進するため、市長等が意見交換を行う場として平成18年に『三圏域連携懇談会』として設置。

名称については、平成28年に三圏域の愛称『北緯40°ナニャトヤラ連邦』を取り入れて、現在の『北緯40°ナニャトヤラ連邦会議』に改称。



【三圏域の振興に向けた意見交換】

三圏域の中心都市3市と各圏域を担当する県の機関とで、市町村や都道府県といった行政の線引きにとらわれることなく、三圏域の振興を目指した意見交換を実施。

＜構成＞

- ・八戸市長（座長）
- ・久慈市長
- ・二戸市長
- ・青森県三八地域県民局長
- ・岩手県県北広域振興局長



● 各分野の主な連携事業

北緯40° ナニャトヤラ連邦会議で提案された事項を具体化するため、専門部会を設置し、各分野で連携事業を実施

- 広域観光：PR動画の制作やテレビ番組でのPR、三圏域を周遊するバスツアーの造成やスタンプラリーを実施。
- 防災協力体制：三圏域市町村総合応援協定に基づく情報伝達訓練の実施等
- 産業経済活性化：圏域企業に対する各種イベントや商談会への出展支援等
- 漆産業振興：漆産地ツアーの開催、ウルシ林創生検討会の開催

ご清聴ありがとうございました。



いかずきんズ